

おお大勝利

平成 26 年度山東サッカー部報第 18 号 (9 月 17 日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

地区新人 つかんだのは県への切符と…

9 月 6 日 (土) 7 日 (日)、村山地区の大会の聖地山形市スポーツセンター (落合) にて地区新人大会が開催されました。今年村山地区には県新人 (全 16 チーム) の枠が 8 与えられており、地区新人は 1 回戦勝つと県新人の切符をつかむことができる (8 枠の理由については前号をご覧ください)。顧問今野が山東に赴任して、今年で 9 年目ですが、県新人に行けなかったのは 1 度だけ¹。あのとき (H19 年地区新人 1 回戦山東対山形学院) は、シュート数 30 本対 1 本のような展開でしたが、その 1 本を決められ、こちらは決めきれず敗れるという、サッカーでままありがちな痛恨の敗北でした。その代 (カオルの代) は、その直後の選手権で優勝候補の一角を破りベスト 8、翌春には県総体 3 位と、痛恨の敗北を力に替えてくれて、最終的には帳尻を合わせお釣りで来ましたが、ともかくそんなこともあった過去の地区新人。**他の強豪チームより一足先に新チームを発足させているアドバンテージを發揮できるか。**相手は寒河江高校 (以下寒高と略記)。県リーグに参加していないため、新チームの情報はゼロ。春先、3 年生がいた時のチームは、有望なアタッカーを擁し、要注意の攻撃力をほこっていました。新チームはどうか? たくさんの保護者、3 年生、応援団、校長の声援、そして清野 OB 会会長、後藤報道局長のバックアップを受け、キックオフ。

山東のボール保持率が高いが、寒高は山東の攻撃陣のスピードを警戒して引き気味なので、それは当然。問題は引き気味の相手を崩せないこと (相手 DF 裏のスペースがない状況にもかかわらず山東 DF から FW への長いボールを入れ過ぎたこと、押し込んだ際もプレーのアイデアに欠けていたこと)、そして、それよりももっと話にならない問題は**中盤での不用意なボールロストが多く、そもそも攻め込めていない**こと。ということで、前半は消化不良の前半。寒高からすれば、思惑通りの前半だったのかもしれませんが。点数が入りそうな予感がしない前半を終えて、後半途中、**不甲斐ない攻撃陣にはもう任せてられないとばかりに CDF タツルが左サイドを駆け上がり、対応する相手選手を力強くぶち抜き、ゴール近くまで挟み、マイナスのボール²を供給、ニアサイドに詰めていたのが、左 MF の小技師ユウト (1 年)。ちょこっと当てて、ゴールイン。**山東、やれやれの先制。タツル 0.9 点分、ユウト 0.1 点分という貢献度の表現がぴったりの 1 点でした。1 点決まり、俄然落ち着いたのが山東攻撃陣。**ボランチサンペス (1 年)** の守備の意識、そしてボールを奪ってからの落ち着いたゲームメイクが光る後半の後半。**右 MF のカスマ (1 年)** が中 (インサイド) に入り、たびたびチャンスを迎える。そして、その中の一つを到頭ものにし、追加点ゲット。あとは、バックアップメンバーを投入するなど

¹ 県総体に行けなかった (地区大会で敗退した) のは、辛うじてまだありません。選手権まで残らない選手がほとんどの山東にとって、それを喰らったら激痛です。

² 相手ゴールから離れるパス (自ゴールに近づく方向性のパス) のことを、マイナスと表現します。ただし、バックパスをマイナスのパス、前方へのパスをプラスのパスとは表現しません (そういう表現を聞いたことはありません)。サイドからのセンターリング (クロスボール) にて、よくマイナスという表現を使います。

して、まずは無難に一回戦突破。そして同時に、県新人の切符ゲット。FW ムンタリは警戒され、ネットを揺らすことができませんでしたが、**代わりにアウトサイドの MF が得点するあたり、悪くない。特にカスマは、歯の怪我³以降、調子を落としていましたが、徐々に復調し、この日先発。この起用に應えるはつらつとしたプレーぶりでした(ヘディングも頑張っている○)。**

2 時間空いて迎える 2 回戦の相手は山形中央 (以下中央と略記)。地区新人で中央と当たるのは、これで 3 年連続。過去 2 年は、何だかんだ「いわくつきの対戦」でしたが、山東が勝利している。ただ、山東の方が力が上という訳では全くなかった。やはり、新チームですでに始動しているチームのアドバンテージの故か。今年はどうなるか。試合が始まると、落ち着いた展開ながら、中央に押される。技術云々より、まずは試合に賭ける中央の選手の意気込み(中央の勢い)を感じる。そして、個々のアタッカーにスピードを感じる。**ここまでのスピード感 Y2B では感じられないもの。フレッシャーにおける速さも然りで、普段ミスの少ないサンペスももたついてボールロストすることしばしば。**そんな中、1 試合目、気持ち/頑張りの感じられないプレーに雷を落とされたもう一人のボランチカツミは、ワンタッチでの捌きでプレッシャーを掻い潜っている。山東左サイドを突破され、早々に中央にチャンスを与えるも、中央の選手の決定力の問題で事無きを得ると、すぐさま山東のパスがつながり、FW タイチのヘディングのパスからムンタリが右サイドを抜け出し、シュート。惜しくもボールは中央 GK に止められる。試合の入りから押され気味の山東にとって、「行ける、行ける」と勇気づけられる一連のプレーとなる。その後は、一進一退。4 分 6 分で中央優勢ながら、山東にもチャンスのある展開。前半スコアレス。後半も同じような展開。ただし、中央のゴール・チャンスは前半に多かったが、山東のゴール・チャンスは後半の方が多かった。要は、山東にとって悪くなかった後半。FK をクイックでスタートされ、素早く山東 DF の裏に出されたボールに付いていけず、中央の選手をフリーにし、先制を許す。しかし、**あまり失点から離れない時間帯に、カツミのスルーパスからムンタリが抜け出し、そして力強く相手の前に入り、GK との 1 対 1。冷静に決め、同点とする。**その後も、カツミムンタリのホットラインが機能し、ピッチ中央からの攻め(インサイドの攻撃)に活路を見出す山東。結局その後は点が入らず、締まった 60 分の決着は PK 合戦へ。「(去年の新人戦での) GK ケッツンの大当たりをサブローが再現するか～」と楽しみにしていた齋藤 GK コーチの期待も空しく、**結果としては PK 合戦負け。**

さて、**この新人戦、山東としては、Y2B とは違うプレースピードの速さを体感できたことが最大の収穫。**このプレースピードの中で、巧く力強くアイデアもってプレーできて本物。ロープレッシャーだとそこそこ上手いがハイプレッシャーでは全然プレーできない「上手いと勘違いしている選手」になってはいけない・・・こんな警告をもらえたことが最大の収穫です。2 年生は全員期待通りの働きをしてくれました。例えばサッチモ。故障明けで 2 回戦に照準を合わせたシャモジが早々に再発による交代をしましたが、**サッチモは慣れない右 SB の起用にも器用さで期待に応えました。**が、中央戦の MOM (Man Of the Match) は、得点者のムンタリ、アシストのカツミ、CDF で頼りがいのあるプレーを連発したタツルなどなどの 2 年生ではなく、**CDF で 2 試合頑張ったシュン (1 年生) にあげたい。元々上手いボール裁きだけではなく、CDF として求められる球際の強さの点でも、本当に効いていました。**「強くなってきたな～、シュン」としみじみ思います。ということで、1 回戦と合わせ、**1 年生の力と 2 年生の力の融合が果たされた地区新人**となりました。

応援ありがとうございました。すぐリーグ戦です。こちらの応援もよろしくお願い致します。

9 月 20 日 (土) Y2B 第 13 節 米沢工業戦 10:00~ @山商 G

³ 部報 13 号参照。